

岐阜市歴史博物館
総合展示室リニューアル基本計画

令和6年3月

岐阜市歴史博物館

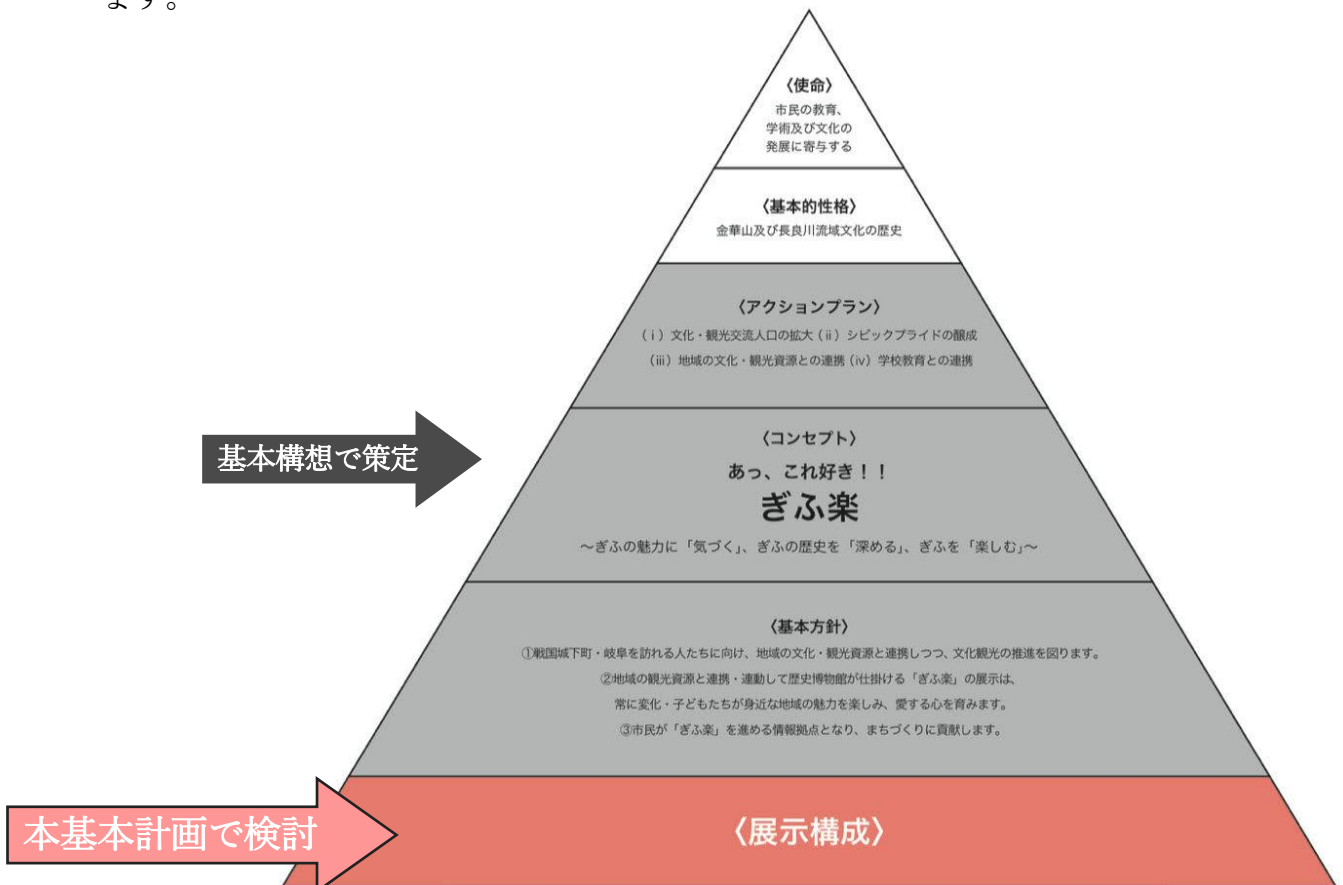
はじめに	3
計画の経緯	
第1章 新総合展示室の理念	4
1. 新総合展示室のコンセプト	4
2. 新総合展示室の基本方針	4
3. 新総合展示室の目指すべき姿	5
第2章 展示基本計画	8
1. 展示テーマとストーリー	8
2. 展示範囲と改修概要	9
3. 展示コンテンツの内容	10
第3章 施設計画	16
1. 展示環境の課題と今後の方針	16
2. ケース改修の概要	17
参考資料	21
1. 総合展示室リニューアル部会	21
2. 総合展示室リニューアルワークショップ等開催一覧	23
3. 事業工程	24

はじめに

計画の経緯

岐阜市歴史博物館総合展示室は、開館20年となる平成16年度にリニューアルを行い、多くのお客様を迎えてきました。一方、その後19年が経過し（令和6年3月現在）、展示設備の老朽化がみられるようになりました。これに加えて、令和4年4月の博物館法の一部改正によりこれからの時代にふさわしい博物館の在り方が示されるとともに、博物館の立地する岐阜公園では再整備事業が進行しています。これらを受け、新しい博物館法に沿いつつ、各事業との連携を図りながら、本市固有の歴史文化の発信・活用を通じての地域の魅力向上、シビックプライドの醸成、入館者数の増加を図ることを目的とし、リニューアルの検討を行うこととしました。

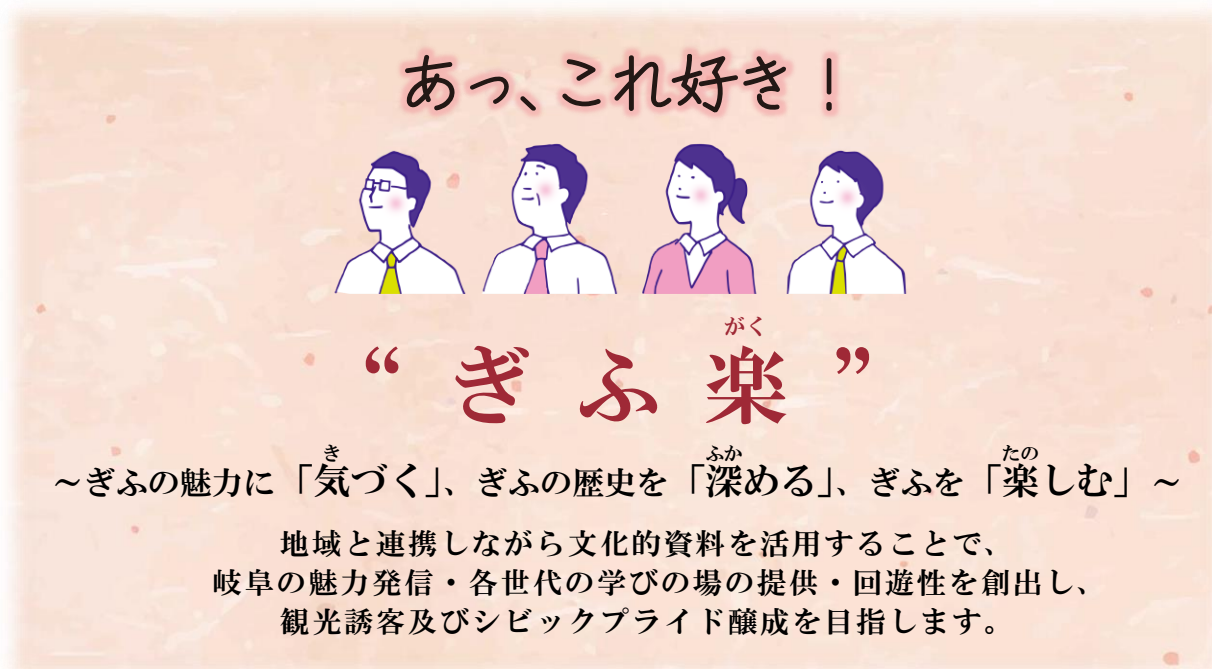
令和4年度には、現状の課題を踏まえた新総合展示室の方針「岐阜市歴史博物館総合展示室リニューアル基本構想」を策定しました。令和5年度では、この基本構想を踏まえ、新たな展示計画及び施設計画の方針等を検討し、「岐阜市歴史博物館総合展示室リニューアル基本計画」を策定します。基本計画の策定にあたっては、市民の意見を多く取り入れました。また、リニューアル後には、市民とともに岐阜市の魅力を発信できる施設を目指していくものとしています。



第1章 新総合展示室の理念

1. 新総合展示室のコンセプト

新総合展示室のコンセプトを基本構想で以下のとおり設定しました。



2. 新総合展示室の基本方針(基本構想より抜粋)

- ① 戦国城下町・岐阜を訪れる人たちに向け、地域の文化・観光資源と連携しつつ、文化観光の推進を図ります。

地域の観光資源と連携・連動して歴史博物館が仕掛ける「ぎふ楽」の展示は、常に変化・進化する「生きた展示」となり、歴史博物館を訪れた来館者にとって多彩な岐阜の魅力との出会い「あっ、これ好き！」をもたらします。これによって周辺に存在する多様な文化・観光資源への回遊を促し、域内の観光誘客に貢献します。

- ② 地域の観光資源と連携・連動して歴史博物館が仕掛ける「ぎふ楽」の展示は、常に変化・子どもたちが身近な地域の魅力を楽しみ、愛する心を育みます。

子どもたちを中心に、市民は「ぎふ楽」への参加を通じて我がまち・岐阜の奥深い魅力を再発見することとなり、シビックプライドの醸成につながっていきます。また、市民一人ひとりが岐阜の魅力「あっ、これ好き！」の語り部へと育っていきます。

- ③ 市民が「ぎふ楽」を進める情報拠点となり、まちづくりに貢献します。

歴史博物館が有する様々な文化的資料を活用しながら、学芸員・市民・観光客などが「あっ、これ好き！」を通じて岐阜の魅力の掘り起こしを行う拠点として持続的にまちづくりに貢献します。

3. 新総合展示室の目指すべき姿

1) これまでの展示の課題と新たな機能

新総合展示室の新たな魅力づくりのため、これまでの展示の課題と新たな機能を以下のように整理しました。

		これまでの展示	リニューアル後の展示
課題	入館者数の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戦国時代をメインにした通史展示 ・ 入館にあたっては入館料が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岐阜城下町を中心に、戦国時代を強化 ・ 岐阜の魅力を発信するテーマを設定し、常に展示内容を変え、リピートを促す ・ 1階エントランスを無料ゾーンとして入館のハードルを下げる
	展示設備の老朽化・旧式化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 故障・修繕不能状態となったデジタル機器 ・ 蛍光灯や白熱灯の使用 ・ 展示ケース内のクロス等の汚損劣化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 更新性のあるデジタル機器の導入 ・ 照明機器のLED化 ・ 展示ケースの改修
新たな機能	博物館法改正		<p>【観光・周遊支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺施設との連携を強化し、周遊を促す ・ 街歩きに繋げるコンテンツを館内に設置し、来館者を地域へ誘う <p>【デジタルアーカイブの活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ デジタルアーカイブ化された博物館資料を活用し、来館者が岐阜の魅力「あっ、これ好き！」を発見できる内容とする

2) 利用者像（ターゲット）

利用者像として3つのターゲットを設定し、それに対するアプローチを以下のようにまとめます。

○岐阜市民（高校生以上）

- ・ 岐阜の歴史・文化の掘り下げによる、シビックプライドの醸成
- ・ 可変的な展示による、新たな岐阜の魅力を発信
- ・ 岐阜の魅力を掘り起こす拠点として、まちづくりへ貢献

○岐阜市民（幼児～小中学生）

- ・ 豊富な体験メニューによる、楽しみながら岐阜の魅力に気づける機会の創出
- ・ 学校のカリキュラムに応じた展示内容による、学校教育との連携
- ・ 「ぎふMIRAI's（みらい）」の取り組みに資する展示

※「ぎふMIRAI's（みらい）」とは「岐阜市全体」を教室、「岐阜市の人・もの・こと」全てを先生として、岐阜市について学ぶ探究学習のこと

○観光客

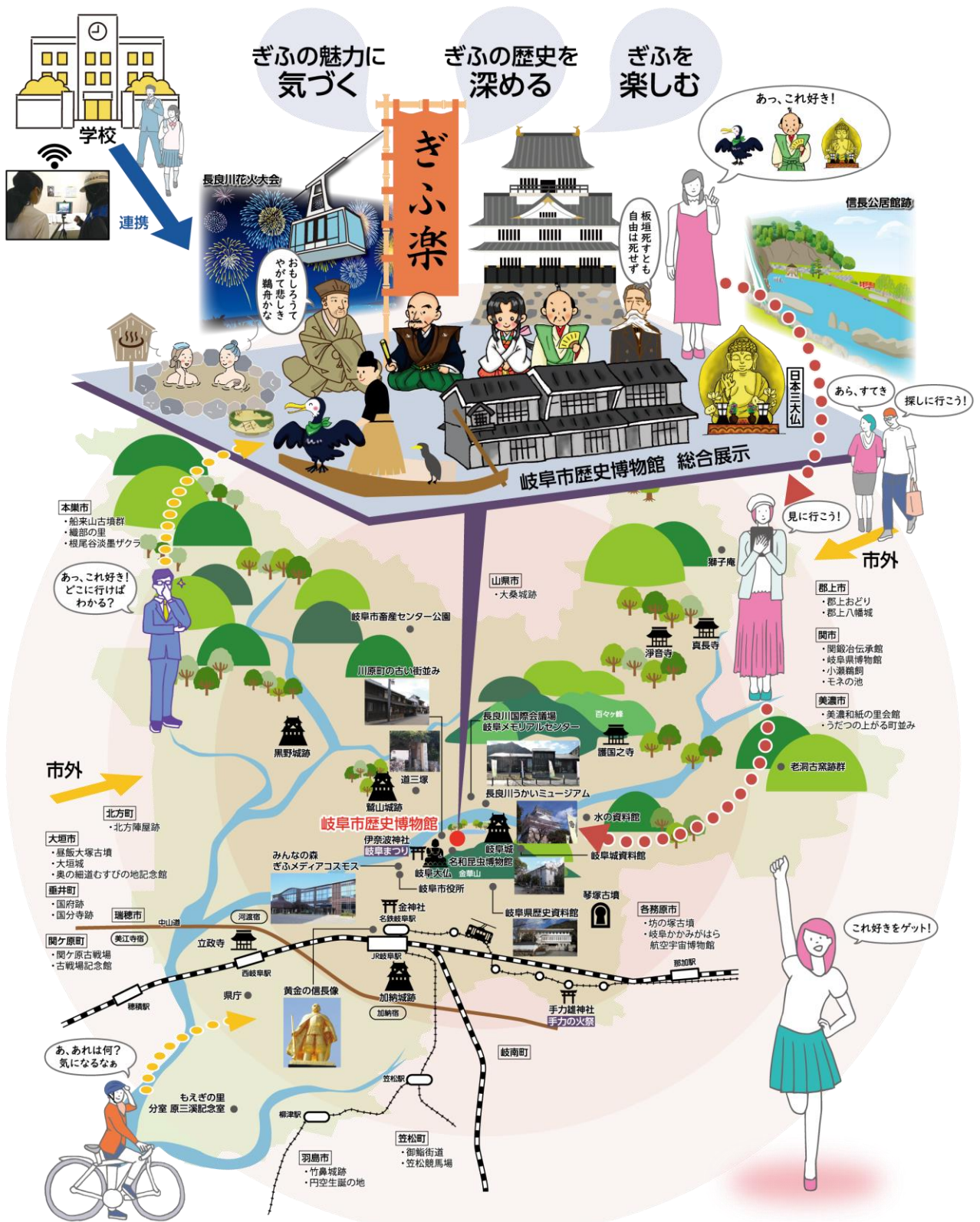
- ・ 戦国城下町の原寸大再現及び実物資料の展示による、岐阜城・戦国時代・織田信長を目的とする観光客へのアプローチ
- ・ 博物館資料と地域の観光資源を結びつけることで、周辺地域の回遊性を創出

3) 周辺施設との連携イメージ

ここでは戦国時代・織田信長・岐阜城を目的とする観光客がどのような動線をたどるかを想定した上で、周辺施設との連携イメージを示します。



4) 地域の観光資源との連携イメージ (基本構想より抜粋)

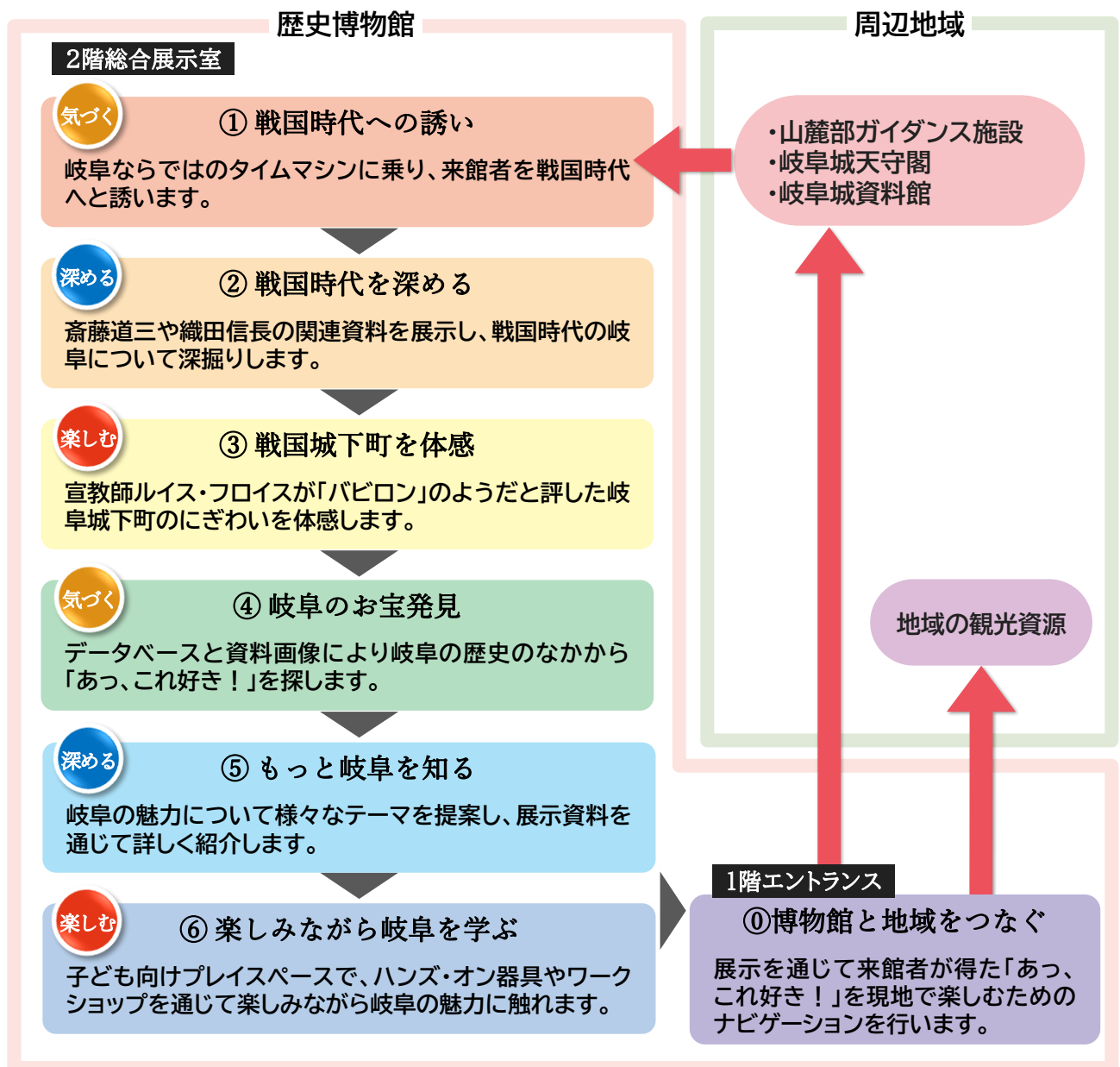


第2章 展示基本計画

1. 展示テーマとストーリー

新総合展示室は、「本物」の資料を通じて、ぎふの魅力に気づき、ぎふの歴史を深め、ぎふを楽しんでもらえる内容とします。

2階新総合展示室でまず取り上げるのは戦国時代です。ここで、織田信長や岐阜城、城下町について学び（①～③）、続いて、岐阜の豊かな歴史の魅力を紹介（④～⑥）。これらを通じて「あっ、これ好き！」を誰もが発見し、さらに1階エントランスのナビゲーションにより、博物館から地域へと興味を広げるストーリーとします。



新総合展示室のコンセプト

あっ、これ好き！

“ぎふ^{がく}楽”

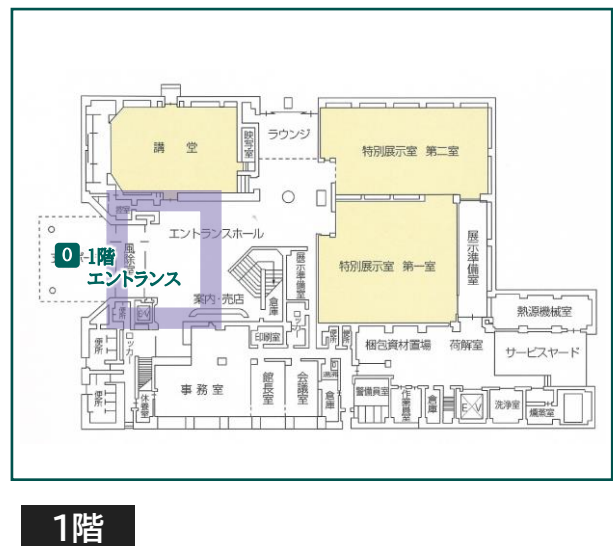
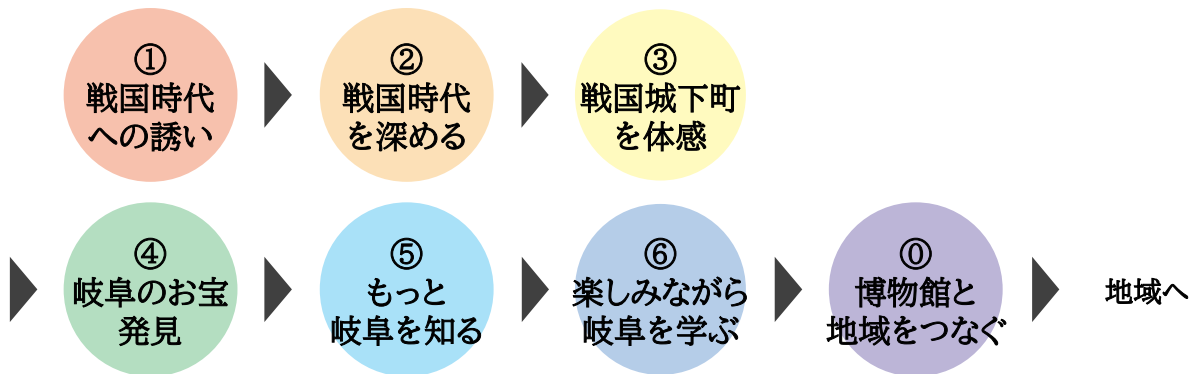
～ぎふの魅力に「気づく」、ぎふの歴史を「深める」、ぎふを「楽しむ」～

2. 展示範囲と改修概要

1) 現状の展示構成とゾーニング



2) リニューアル後の展示構成とゾーニング



3. 展示コンテンツの内容

本項では展示コンテンツの内容について取り上げます。ただし、掲載する図面やイラスト、画像はあくまでイメージ図です。

1 ぎふタイムマシン

ストーリー

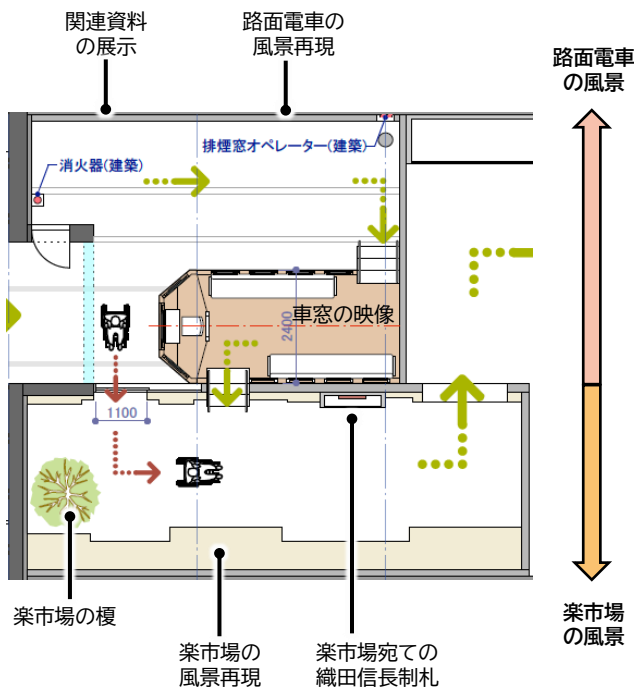
展示室に入った来館者は、歴史博物館が開館した昭和60年（1985）頃の風景を目にします。そこには、明治時代から岐阜の公共交通機関として親しまれ、多くの市民の記憶に残る名鉄岐阜市内線の路面電車が走り、電車に乗ると、車窓から見える映像によって戦国時代までタイムトリップします。

路面電車から降りると、そこには織田信長が稲葉山城を攻略し、居城を小牧山から岐阜へ移した永禄10年（1567）の楽市場の風景が広がります。

ねらい

路面電車（タイムマシン）に乗り込んで戦国時代までタイムトリップする設定とすることで、次の「戦国コレクション」「タイムトリップin城下町」の世界へと惹きこみ、展示への高揚感を高めます。

また、戦国時代へとさかのぼる映像を通して、岐阜の歴史のおおよその流れを見せ、その後の展示の伏線とします。



路面電車の風景再現

画像等を利用した、町並みの再現。

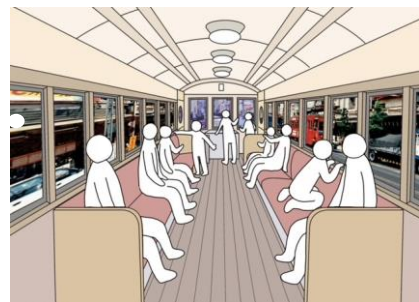


関連資料の展示

レールや乗車券、路線図などの「本物」の資料を展示。

車窓の映像

車窓から見える映像による昭和期から戦国時代へのタイムトリップ。



楽市場の風景再現

半立体模型などによる実大再現。



2 戦国コレクション

ストーリー

楽市場（ぎふタイムマシン）から、戦国の岐阜城下町（タイムトリップin城下町）まで歩みを進める間に、実物資料の展示を観ながら当時の息吹を肌で感じます。



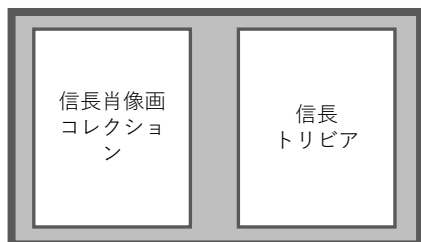
項目	内容	主な展示資料	分類
道三から信長へ	斎藤道三の台頭から織田信長の美濃攻略までを紹介します。	斎藤道三肖像画	実物
		斎藤義龍肖像画	実物
岐阜城	岐阜城の絵図とともに発掘調査の成果を紹介します。	稲葉城趾之図	実物
		岐阜城出土品	実物
天下布武の時代	「天下布武」を目指した織田信長の軍事・外交などについて取り上げます。	信長記	実物
		織田信長朱印状	実物
		織田信長肖像画	複製
天下統一への道	織田信長が目指すも叶わなかった天下統一。それが実現する過程をたどります。	関ヶ原合戦図屏風	実物
		甲冑	実物
		刀剣	実物
		美濃彫	実物
文化のひろがり	南蛮文化や、成熟した茶の湯文化など戦国時代の豊かな文化を展観します。	南蛮草花蒔絵螺鈿洋櫃	実物
		天正かるた版木硯箱	実物
		美濃焼	実物
信長と城下町	斎藤道三や織田信長の時代に形成された岐阜城下町について、その全容を伝えます。	信長モニター	検索装置
		岐阜町絵図	実物
		フロイスが見た岐阜	複製+映像

ねらい

織田信長、戦国時代の岐阜に関する情報を、実物資料とともに伝え、来館者の好奇心を高めます。また、定期的に展示替えを行い、いつ来ても「本物」の戦国時代の資料をじっくりと観ることができる機会を提供します。

信長モニター

現存する信長の肖像画を全て集めた「信長肖像画コレクション」、信長に関する様々な情報を集めた「信長トリビア」などのコンテンツを提供。



フロイスが見た岐阜

イエズス会宣教師ルイス・フロイスの岐阜での活動と、フロイス目線で岐阜の戦国城下町を紹介。あたかもフロイスが解説しているかのように演出します。



3 タイムトリップ in 城下町

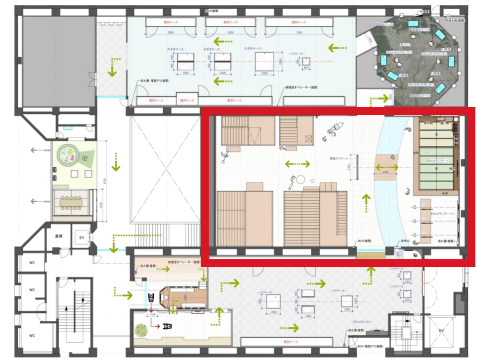
ストーリー

ルイス・フロイスの案内を聞き終えると、いよいよフロイスが岐阜を訪れた永禄12年（1569）頃の岐阜城下町に足を踏み入れます。

梶川堀を境に、堀の西が町家、堀の東が武家屋敷となっており、屋敷内での体験に加えて、発掘資料などの「本物」の資料を展示することによって、城下町への理解を深めます。

ねらい

アクティブに楽しみながら城下町を学習できる内容を目指します。町家エリアは当時の岐阜城下町のにぎわいや、町人のくらしを肌で感じられる内容とし、武家屋敷エリアは学校団体などへの解説を行う場所としても活用します。



町家

町家は、既存の実大再現を活用。当時のにぎわいを演出するとともに、町人のくらしを体験できるコンテンツを提供します。

○ にぎわい演出

壁面に四季の移ろいを感じる映像を投影し臨場感を高めると同時に、城下町を行き交う人々の様子を映し出すことで当時の賑わいを伝えます。

○ 町人のくらし体験(例)

- 薬屋** 香りで薬草の種類を当てよう
薬研で薬材を粉末にしよう
- 紙屋** くずし字を体験してみよう
- 塩屋** 盤双六で勝負しよう
- 反物屋** 戦国時代の衣装展示
- 店先** 輪鼓を回してみよう、貝独楽を回してみよう



武家屋敷

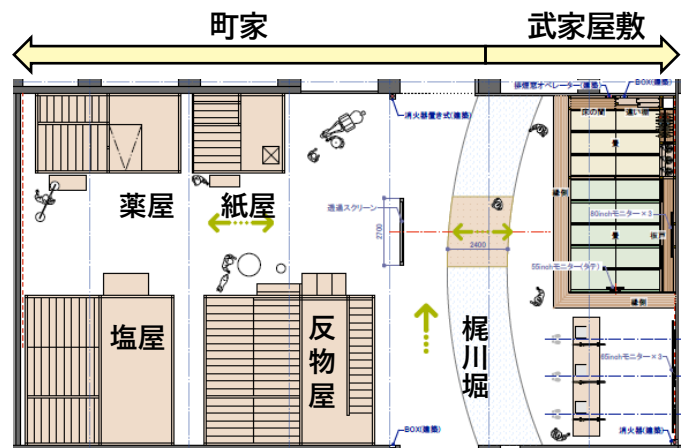
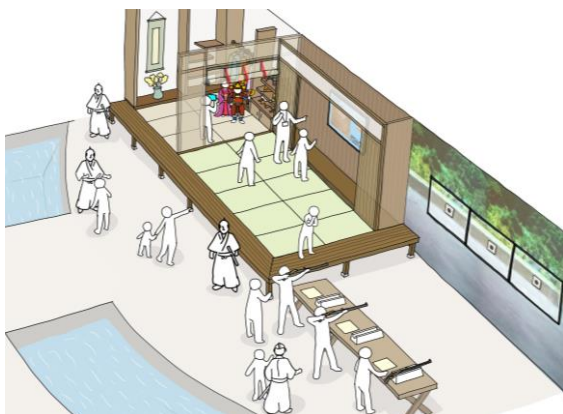
武士のくらしを体感できる武家屋敷を新設し、武士のくらしを体験できるコンテンツを提供します。

○ 武士のくらし体験

- 着付体験** 忠実に復元した戦国衣装を体験（既存）
- 火縄銃体験** 屋敷の庭での火縄銃の訓練を体験（新設）

○ 学習用モニター

通常時は「屏風人物探しゲーム」などのコンテンツを提供し、団体対応時には解説用モニターとして活用。



4 マイ・トレジャー・ウォーク

ストーリー

戦国時代を出た来館者は、原始から近現代までの岐阜の歴史の流れの中に飛び込み、「あっ、これ好き！」と思う資料を発見します。

ねらい

岐阜市の通史を概観できる内容とすることで、次の「ぎふヒストリー展示」の理解促進に繋がります。また、デジタルアーカイブ化された博物館資料を活用し、来館者1人1人にあわせた「あっ、これ好き！」（資料）を提供します。



検索モニター

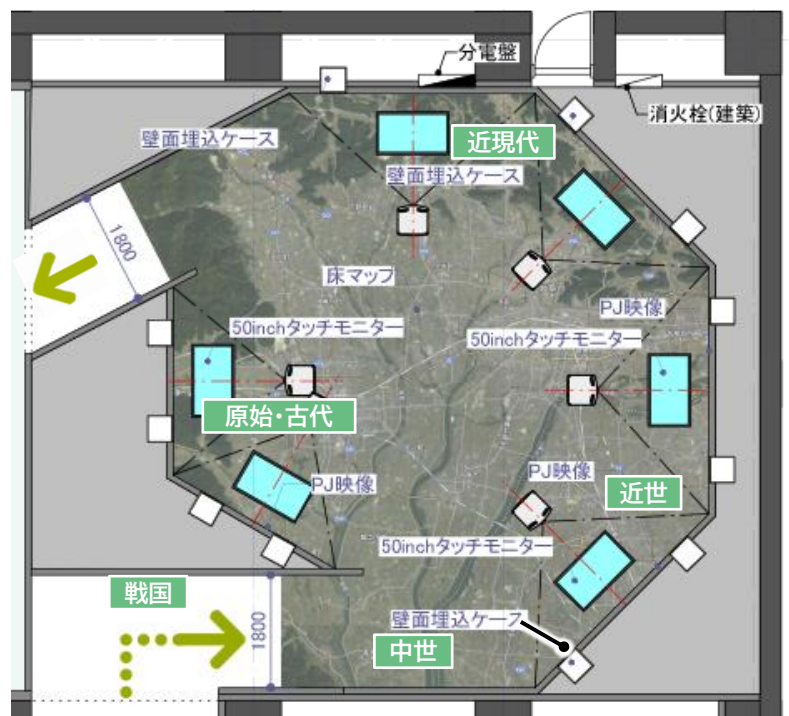
歴史博物館の資料を検索できるモニター。来館者が直感で「あっ、これ好き！」に出会えるように、興味関心にあわせて検索しやすいシステムとします。

地図(床面)

床には、岐阜市を中心とした周辺地域の地図を設置し、来館者が検索モニターで見つけた「あっ、これ好き！」が、どの地域のものかが分かるようにします。

年表(壁面)

壁には岐阜市の年表グラフィックが描かれ、主要な場所には「本物」の資料も展示します。来館者が検索モニターで見つけた「あっ、これ好き！」が、どの時代のものかが分かるようにします。



5 ギフヒストリー展示

ストーリー

来館者は、歴史博物館の所蔵する「本物」の資料を通して、岐阜の魅力について理解を深めます。そして、最後に歴史博物館の基本的性格「金華山及び長良川流域文化の歴史」を示すエンディング展示により、豊かな自然に育まれた歴史を心に刻み、展示室を後にします。

ねらい

季節やその時々話題に応じた展示替えを行い、毎回違った岐阜の魅力を提案することで、リピーターを増やし、交流人口のみならず関係人口の創出に寄与します。加えて、岐阜の文化や歴史の新たな一面を知ることにより、市民の岐阜への愛着を創出し、シビックプライド醸成につなげます。

6 ギフ楽プレイコーナー

ストーリー

一部を再現した岐阜の町家での浮世絵摺りや、町家の外での古墳のボールプール、土器パズルなどの体験を通じて、楽しみながら岐阜の歴史を学びます。

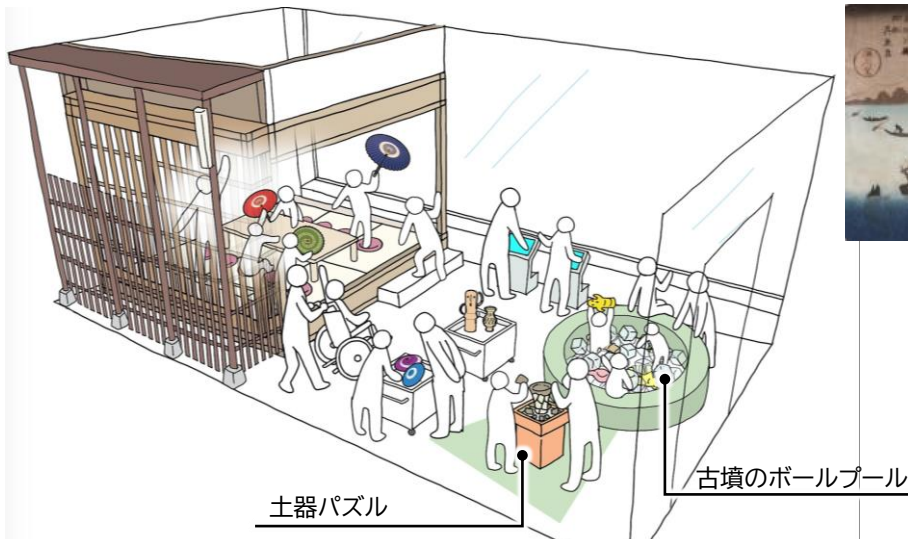
ねらい

「本物」の資料も活用した博物館ならではの体験メニューを提供。子どもたちに楽しみながら岐阜の奥深い魅力を発見してもらい、岐阜への愛着が育まれることを目指します。

町家のヒミツ

目隠しと通風の機能を併せ持つ格子や無双窓など、町家ならではの工夫を体験。

* 建具は博物館所蔵資料を活用



テーマ例

川端康成、蓑虫山人、徳川家康、加納鉄哉、市内の遺跡・城館、災害、岐阜和傘、岐阜提灯、鶴飼、岐阜町、浮世絵 など



浮世絵摺り体験

浮世絵の重ね摺りを体験。

* 既存の体験道具を活用 (移設)



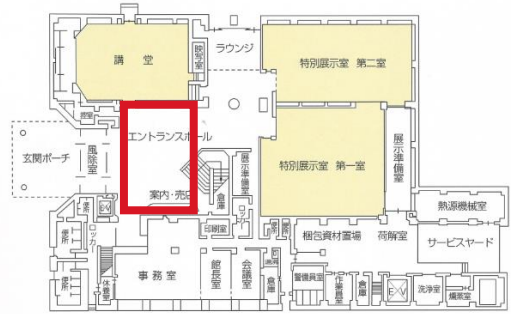
0 エントランス（1階）

ストーリー

2階総合展示室で岐阜の魅力「あっ、これ好き！」を見つけた来館者は、1階エントランスのナビゲーション装置で、各地に残る文化観光資源について知り、地域へ興味を広げていきます。

ねらい

博物館資料と地域の文化観光資源とを結びつけるナビゲーション装置を設置し、現地で楽しむためのサポートも行うことで、総合展示室で完結することなく、岐阜の魅力がさらに外に向かって続いていくことを提示。
また、ふらっと立ち寄った来館者に対しても興味を惹く仕掛けや演出を行うことで、2階総合展示室に興味を持ち、展示鑑賞を促す内容とします。
なお、エントランスではイベント等が開催されることもあるため、設置する装置は可動式とします。



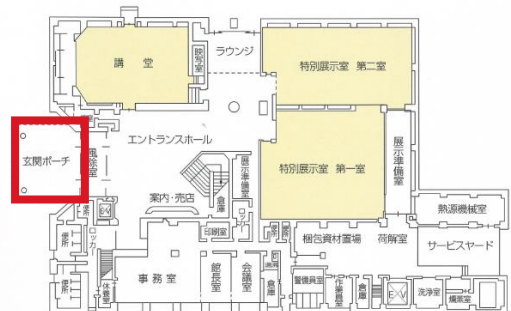
0 玄関ポーチ（1階）

ストーリー

好奇心やワクワク感を喚起する玄関ポーチによって、館内への興味や期待感が高まります。

ねらい

歴史博物館の顔である玄関ポーチを更新することで、岐阜公園再整備にかかる諸施設との関連を視覚的に訴えます。また、入りやすい、入ってみたいくなる印象的な入口とすることで、集客力を高めます。



第3章 施設計画

1. 展示環境の課題と今後の方針

新総合展示室の設計においては、基本構想、基本計画のプランを尊重しつつ、防災設備等を調査した上で、設備の回避もしくは位置変更等について検討する必要があります。

また、空調設備の改修も同時に行う予定であることから、設計・施工にあたっては空調設備設計・施工業者との協議・検討を綿密に行う必要があります。

1) 空調設備

- 空調設備は、設置後39年が経過しており、経年劣化が著しく、部品供給も困難になってきています。
- そのため、総合展示室のリニューアル工事による休館期間中に空調設備の改修を行う予定です。

2) 照明機器

- 総合展示室で使用している照明機器は、ケース内照明・スポットライトいずれも蛍光灯や白熱灯を使用していますが、消費電力が大きく、交換部品の生産も終了しつつあり今後はメンテナンスができなくなる見込みです。加えて、LEDと比較して熱や紫外線の発生など資料保存の観点からもデメリットがあります。そのため、リニューアルに際しては、全ての照明機器をLEDに替える必要があります。
- 配線ダクトは可能な限り既存のものを活用し、必要に応じて新規設置します。

3) 展示ケース

- 既存の展示ケースには経年劣化や展示作業によるクロスの汚損等が見られます。
- そのため、既存ケースを活用する場合にはクロス等の張替えを行う必要があります。
- なお、歴史博物館は公開承認施設であり、その設置基準に準拠した設計・施工を行う必要があります。



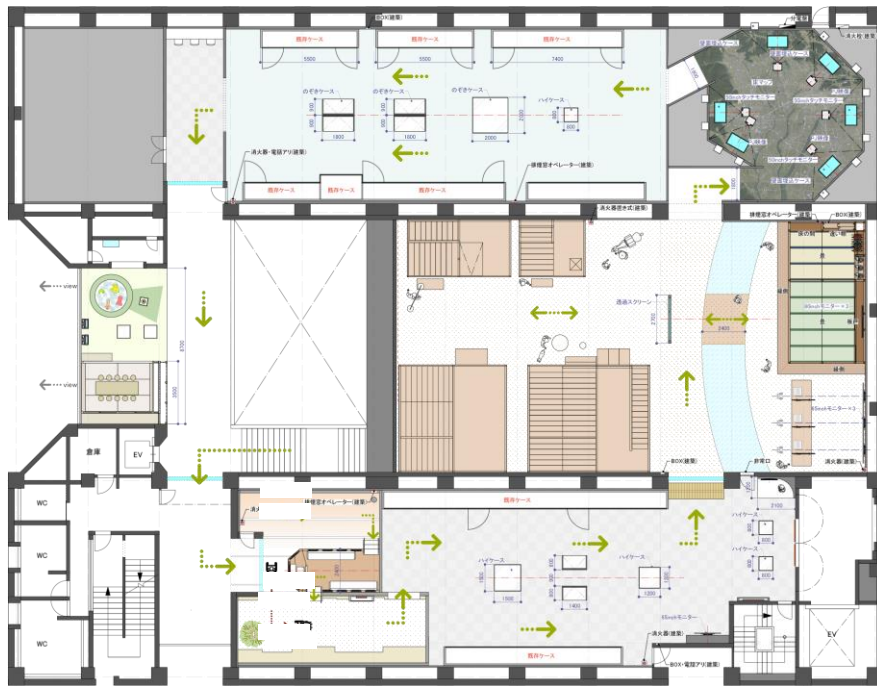
2. ケース改修の概要

1) ウォールケース【既存ケース改修】

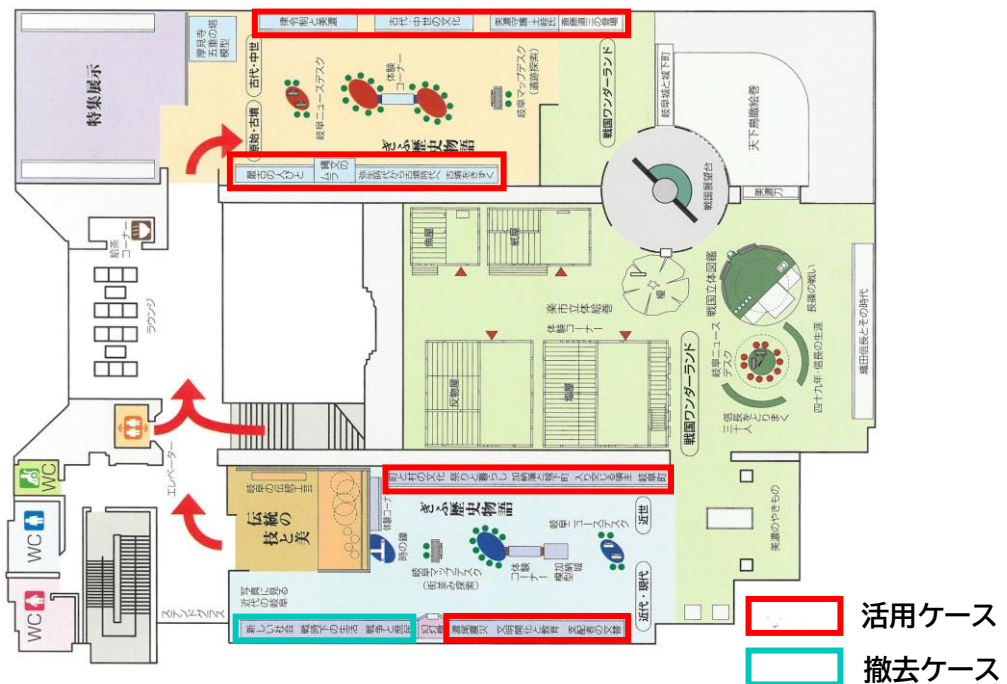
戦国コレクション、ぎふ歴史展示で用いるウォールケースは既存ケースを活用します。ただし、照明機器のLED化、クロス張替等が必要になります。



既存ケースを活用した平面図(例)



活用する既存ケース(例)



3) 行灯ケース【既存ケース改修】

美濃焼や漆器などを展示する予定の行灯ケースは既存ケースを活用します。ただし、クロスの張替等が必要になります。

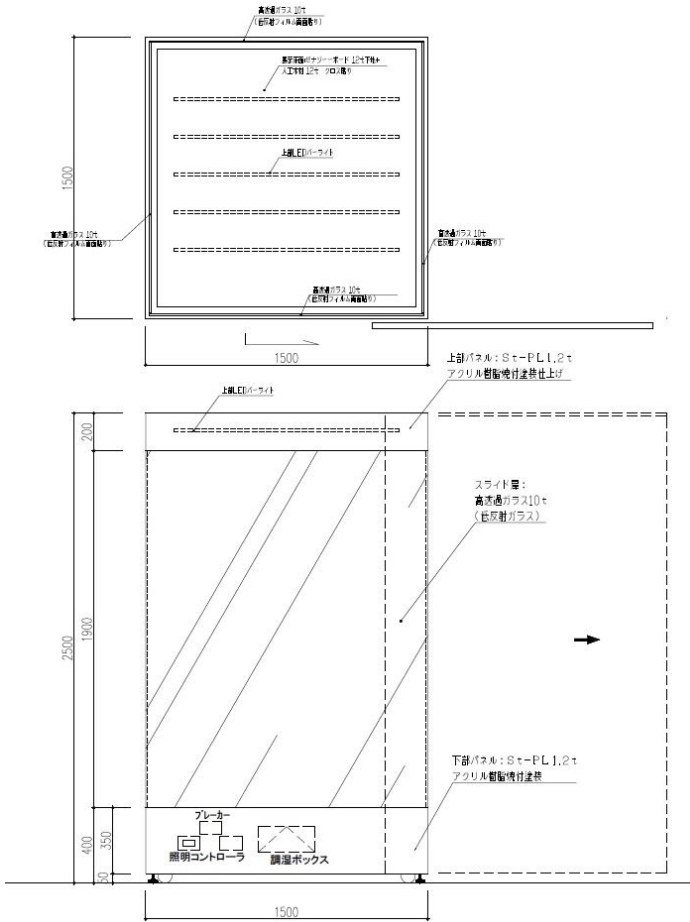


4) のぞきケース【新規】 (例)

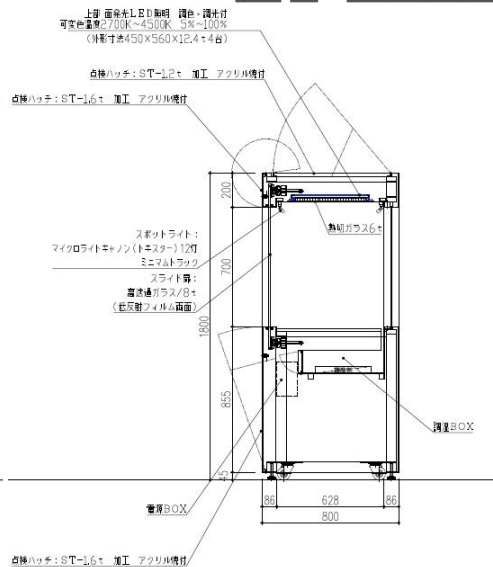
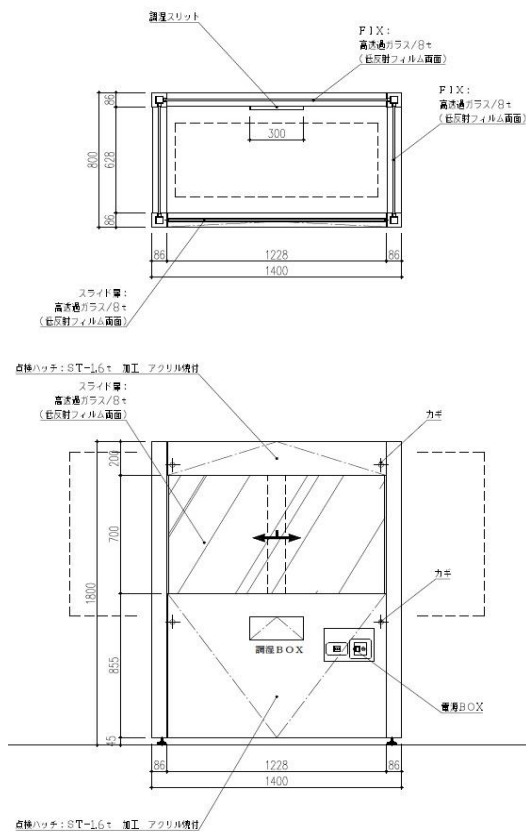
のぞきケースは、汎用性の高いケースとします。横にケースを繋げて結合できるようなものを選定します。



5) 甲冑用ケース【新規】 (例)



6) 刀剣用ケース【新規】 (例)



参考資料

1. 総合展示室リニューアル部会

1) 部会員名簿及び部会開催日（令和5年度）

第1回総合展示室リニューアル部会…令和5年8月2日（水）開催

第2回総合展示室リニューアル部会…令和5年11月27日（月）開催

第3回総合展示室リニューアル部会…令和6年2月6日（火）開催

部会員

氏名	所属団体等	備考
伊藤 嘉章	愛知県陶磁美術館 総長 町田市立博物館 館長	第3回は欠席
岩淵 裕志	—	岐阜市歴史博物館協議会公募委員 第3回は欠席
岡本 知彦	株式会社ナバヤ 社長	—
福島 正通	株式会社JTB	—
森田 晃一	岐阜大学 名誉教授	—
安田 幸典	岐阜市立常磐小学校 校長	岐阜市小中学校長会小学校代表 第2回は欠席

アドバイザー

氏名	所属団体等	備考
藤田 千織	独立行政法人国立文化財機構 文化財活用センター 企画担当課長	第2回のみ出席
高橋 美奈子	独立行政法人国立文化財機構 文化財活用センター 企画担当室長	第2回のみ出席
間 淵 創	独立行政法人国立文化財機構 文化財活用センター 保存担当研究員	第2回のみ出席

2) 岐阜市歴史博物館協議会 総合展示室リニューアル部会設置要領

令和4年4月1日 決裁

(設置)

第1条 岐阜市歴史博物館2階総合展示室のリニューアルにあたり、文化財の展示、地域における教育・学術・文化の振興及び文化観光施設としての価値を高めることを目的として、専門的に調査及び審議を行うため、岐阜市歴史博物館条例施行規則（令和2年3月30日規則第71号。以下「規則」という。）第18条第1項の規定に基づき、岐阜市歴史博物館協議会（以下「協議会」という。）に総合展示室リニューアル部会（以下「専門部会」という。）を設置する。

(所掌)

第2条 専門部会は、総合展示室のリニューアルにおける専門事項の調査及び審議を行うものとする。

2 専門部会は、調査及び審議を行った結果を協議会に報告するものとする。

(組織)

第3条 専門部会は、委員6人以内で組織する。

2 部会員は、規則第18条第2項の規定により、協議会の会長がこれを指名する。

(任期)

第4条 部会員の任期は、委嘱の日から第2条に規定する所掌についての協議が終了する日までとする。ただし、協議会委員の任期を超えることはできない。

(部会長及び副部会長)

第5条 専門部会には、部会長及び副部会長を置き、部会員の互選により定める。

2 部会長は、専門部会の会務を総理し、専門部会を代表する。

3 副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故があるとき又は部会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 専門部会の会議（以下「会議」という。）は、部会長が招集し、その議長となる。

2 会議は、部会員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 部会長は、特に必要があると認めるときは、会議に部会員以外の者の出席を求め、その意見若しくは説明を聴き、又は必要な資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第7条 専門部会の庶務は、ぎふ魅力づくり推進部歴史博物館において処理する。

(その他)

第8条 この要領に定めるもののほか、必要な事項は、部会長が定める。

附 則

この要領は、令和4年4月1日から施行する。

2. 総合展示室リニューアルワークショップ等開催一覧

1) 大学生ワークショップ（博物館実習生）

開催日：令和5年8月26日（土）、29日（火）
参加者：岐阜県内在住、在学大学生 延べ27人
テーマ：マイ・トレジャー・ウォークのレイアウト



2) 中高生ワークショップ（SMC）

開催日：令和5年9月2日（土）、3日（日）、9日（土）、10日（日）
参加者：岐阜市内在住、在学中高生 延べ24人
テーマ：岐阜の魅力伝える体験メニュー



3) 大学生ワークショップ（岐阜大学地域科学部）

開催日：令和5年9月7日（木）、8日（金）
参加者：岐阜県内在住、在学大学生 延べ16人
テーマ：戦国時代に関する体験メニュー



4) 歴博ボランティア意見交換会

開催日：令和5年9月12日（火）、20日（水）、11月16日（木）、19日（日）
参加者：歴博ボランティア 延べ53人
テーマ：リニューアル計画案に対する意見交換

3. 事業工程

